

令和 8 年度 東京都内湾水生生物調査 6 月鳥類調査 速報

●実施状況

令和 8 年 6 月 4 日に鳥類調査を実施した。調査当日は中潮で、干潮が 13:09(25cm)、満潮は 6:01(180cm)であった(気象庁のデータ)。各地点の概況を下表に示す。

| | 葛西人工渚(東なぎさ) | 森ヶ崎の鼻 | お台場海浜公園 |
|-----------|---------------------------------------|--------------------------------------|---------------------------------------|
| 調査時刻 | 9:04-10:14 | 12:40-13:22 | 10:47-12:15 |
| 調査時間(分) | 70 | 42 | 88 |
| 天候 | 曇 | 曇 | 曇 |
| 気温(°C) | 21.4 | 24.3 | 23.6 |
| 風向 | 北 | 北 | 北東 |
| 風速(m/sec) | 2.0 | 3.4 | 3.5 |
| 備考 | 調査開始時は潮がやや高かった。干潟に多数のミズクラゲが打ち上げられていた。 | 最干潮前から干潟は広く干出。干潟にアメリカデイゴの花が多数漂着していた。 | 海浜公園側は観光客が多かった。東京アクアシンフォニーは稼働していなかった。 |

●主な出現種等

| | 葛西人工渚(東なぎさ) ※沖合含む | 森ヶ崎の鼻 | お台場海浜公園 |
|--------------------|--|--|--|
| 数が多かった 鳥類上位 3 種 | カワウ(490 羽) | カワウ(56 羽) | カワウ(1421 羽) |
| | ウミネコ(193 羽) | アオサギ(12 羽) | アオサギ(46 羽) |
| | コサギ(26 羽) | カルガモ(8 羽) | コサギ(13 羽) |
| 備考 | <ul style="list-style-type: none"> ・ヒクイナ、オオソリハシシギ、オオセグロカモメ、ヘラサギ、クロツラヘラサギ等、重要種として 10 種を確認。 ・シギ・チドリ類はオオソリハシシギ 1 種のみ。 ・ヘラサギ 1 羽とクロツラヘラサギ 2 羽が干潟で休息。 ・ミサゴ 1 羽が海上の杭にとまって採餌。 ・干潟でカワウ、ウミネコ、オオセグロカモメの群れが休息、サギ類は採餌と休息。 ・沖合でウミネコとカワウを確認。 | <ul style="list-style-type: none"> ・シロチドリ、ウミネコ、コサギ等、重要種として 5 種を確認。 ・シギ・チドリ類はコチドリを護岸で、シロチドリを干潟で確認。 ・干潟でカワウの群れとカルガモが休息。ウミネコとサギ類は採餌と休息の両方が見られた。 ・コアジサシは確認されなかった。森ヶ崎水再生センター屋上では 6 月 6 日に成鳥 4 羽の飛翔が確認されているが、営巣数は 0 である。 | <ul style="list-style-type: none"> ・スズガモ、コサギ等、重要種として 5 種を確認。 ・第六台場と鳥の島でカワウが営巣中。巣数は第六台場 6 巣、鳥の島 2 巣で合計 8 巣。営巣期の終盤と考えられる。営巣地や岩礁で幼鳥を多数確認。個体数は合計 1421 羽。 ・サギ類はアオサギとダイサギ、コサギの 3 種で、第六台場でアオサギ 2 巣とコサギ 6 巣の営巣を確認。コサギの営巣は 7 年ぶり。 ・カモ類はカルガモとスズガモの 2 種を確認。 ・トビ 3 羽が上空を飛翔。 |

●出現種と個体数

| No. | 目 | 科 | 種名 | 令和8年 6月 | | | | | | | 重要種 選定基準 | | | | | |
|-----------|-------|-------|-----------|-------------|----|-----|-------|----------|---------|---------|-----------|------------|-------------|-----------------|--------------------------|-----|
| | | | | 葛西人工渚(東なぎさ) | | | 森ヶ崎の鼻 | お台場海浜公園 | | | 3地点 合計 | 文化財 保護法 | 種の*1 保存法 | 環境省*2 RL2026 | 東京都*3 RDB2023 (区部) | |
| | | | | 範囲 内 | 沖合 | 合計 | | 第六 台場 | 鳥の 島 | 公園 側 | | | | | | 合計 |
| 1 | カモ | カモ | カルガモ | 2 | | 2 | 8 | | 5 | 4 | 9 | 19 | | | | |
| 2 | | | スズガモ | | | | | | | 1 | 1 | 1 | | | NT | 留 |
| 3 | ツル | クイナ | ヒクイナ | 2 | | 2 | | | | | | 2 | | | NT | CR |
| 4 | カイツブリ | カイツブリ | カンムリカイツブリ | 2 | | 2 | | | | | | 2 | | | | 留 |
| 5 | チドリ | チドリ | コチドリ | | | | 2 | | 1 | 2 | 3 | 5 | | | | CR |
| 6 | | | シロチドリ | | | | 1 | | | | | 1 | | | VU | CR |
| 7 | | シギ | オオソリハシシギ | 1 | | 1 | | | | | | 1 | | | VU | EN |
| 8 | | カモメ | ウミネコ | 191 | 2 | 193 | 7 | | | | | 200 | | | VU | 留 |
| 9 | | | オオセグロカモメ | 5 | | 5 | | | | | | 5 | | | EN | |
| 10 | カツオドリ | ウ | カワウ | 487 | 3 | 490 | 56 | 701 | 648 | 72 | 1421 | 1967 | | | | |
| 11 | ペリカン | トキ | ヘラサギ | 1 | | 1 | | | | | | 1 | | | EN | |
| 12 | | | クロツラヘラサギ | 2 | | 2 | | | | | | 2 | | 国内 | VU | CR |
| 13 | | サギ | アオサギ | 11 | | 11 | 12 | 15 | 30 | 1 | 46 | 69 | | | | |
| 14 | | | ダイサギ | 2 | | 2 | 1 | 1 | | 1 | 2 | 5 | | | | NT |
| 15 | | | コサギ | 26 | | 26 | 2 | 10 | 2 | 1 | 13 | 41 | | | VU | VU |
| 16 | タカ | ミサゴ | ミサゴ | 1 | | 1 | | | | | | 1 | | | | EN |
| 17 | | タカ | トビ | | | | | | 3 | | | 3 | | | | NT |
| 18 | スズメ | セキレイ | ハクセキレイ | | | | 2 | 2 | 2 | 1 | 5 | 7 | | | | |
| 計8目12科18種 | | | | 13種 | 2種 | 13種 | 9種 | 6種 | 6種 | 8種 | 9種 | 18種 | 0種 | 1種 | 9種 | 12種 |

※種の分類・配列は「日本鳥類目録 改訂第8版」(日本鳥学会, 2024)に従った。

*1 文化財保護法: 特天=特別天然記念物

*2 種の保存法: 国際=国際希少野生動植物種、国内=国内希少野生動植物種

*3 環境省 第5次レッドリスト(2026): CR=絶滅危惧IA類、EN=絶滅危惧I B類、VU=絶滅危惧II類、NT=準絶滅危惧、DD=情報不足

*4 東京都レッドデータブック2023(区部)2023年版: CR=絶滅危惧IA類、EN=絶滅危惧I B類、VU=絶滅危惧II類、NT=準絶滅危惧、DD=情報不足、留=留意種

<葛西人工渚(東なぎさ)>

○調査地点の状況

調査開始時に干潟はまだ狭く、徐々に広く干出した。



○出現種(オオソリハシシギ)

シギ・チドリ類は干潟で採餌するオオソリハシシギ 1 羽が確認された。本種は環境省レッドリストで絶滅危惧Ⅱ類(VU)、東京都レッドデータブックで絶滅危惧ⅠB類(EN)に指定されている。



○ヘラサギ類

干潟で休息するヘラサギ 1 羽とクロツラヘラサギ 2 羽が確認された。ヘラサギは環境省レッドリストで絶滅危惧ⅠB類(EN)に、クロツラヘラサギは種の保存法で国内希少野生動植物種、環境省レッドリストで絶滅危惧Ⅱ類(VU)、東京都レッドデータブックで絶滅危惧ⅠA類(CR)に指定されている。



○出現種(カンムリカイツブリ)

海上を泳ぐ 2 羽が確認された。本種は東京都レッドデータブックで留意種に指定されている。



○ミサゴ

海上の杭にとまって、魚を食べる1羽が確認された。本種は東京都レッドデータブックで絶滅危惧ⅠB類(EN)に指定されている。



○ヒクイナ

ヨシ原の 2 か所から鳴き声が聞かれた。本種は環境省レッドリストで準絶滅危惧(NT)、東京都レッドデータブックで絶滅危惧ⅠA類(CR)に指定されている。

○干潟利用状況

干潟でカワウとカモメ類の群れが休息。サギ類はコサギが採餌、アオサギとダイサギが休息していた。ウミネコとオオセグロカモメは、全体に褐色を帯びた若鳥が多く確認され、成鳥は少なかった。オオセグロカモメは環境省レッドリストで絶滅危惧ⅠB類(EN)に指定されている。



<森ヶ崎の鼻>

○調査地点の状況

最大干潮時刻で、干潟が広く干出していた。



○出現種(シギ・チドリ類)

コチドリとシロチドリの 2 種が確認され、コチドリは護岸で採餌、シロチドリは干潟で休息していた。どちらも東京都レッドデータブックで絶滅危惧 IA 類 (CR) に指定され、加えてシロチドリは環境省レッド



コチドリ



シロチドリ

リストで絶滅危惧 II 類 (VU) に指定されている。なお、リトルターンプロジェクトのブログによれば、6 月 6 日の調査の結果、コチドリ 1 巣が確認されているが、シロチドリの営巣はなく、コアジサシは飛翔する成鳥 4 羽のみで営巣は確認されていない。 <https://littletern.hatenablog.com/entry/2026/06/07/234556>

○出現種(サギ類)

アオサギ、ダイサギ、コサギの 3 種が確認された。アオサギの一部が休息していた他は、主に採餌していた。ダイサギは東京都レッドデータブックで準絶滅危惧種 (NT) に、コサギは環境省レッドリストと東京都レッドデータブックで絶滅危惧 II 類 (VU) に指定されている。



アオサギ (左) とダイサギ



コサギ

○出現種(ウミネコ)

7 羽が確認され、干潟で採餌または休息していた。本種は環境省レッドリストで絶滅危惧 II 類 (VU)、東京都レッドデータブックで留意種に指定されている。



○干潟利用状況

カワウの群れが干潟の高い部分で休息していた。他にカルガモ、シロチドリ、ウミネコ、サギ類が見られたが、干潟を利用する鳥類の個体数は少なかった。



干潟で休息するカワウ

<お台場海浜公園>

○調査地点の状況

第六台場・鳥の島ではカワウの営巣が終盤に入った。



○出現種(カワウ)

1421羽が確認された。営巣数は第六台場で6巣、鳥の島では2巣、合計8巣で、確認できた巣のほとんどが巣立ち後の古巣であった。第六台場の護岸や樹林、鳥の島には、巣立った幼鳥が多く見られた。



○出現種(サギ類)

アオサギ、ダイサギ、コサギの3種が確認された。個体数はアオサギが多く46羽、次いでコサギ13羽、ダイサギ2羽の順であった。第六台場の林内ではアオサギとコサギの営巣が確認された(トピックス参照)。



○出現種(カモ類)

カルガモとスズガモの2種が確認された。スズガモは1羽が護岸に上陸しており、怪我などが原因で越冬地に留まったままの可能性はある。スズガモは環境省レッドリストで準絶滅危惧種(NT)、東京都レッドデータブックで留意種に指定されている。



○出現種(トビ)

第六台場の上空を飛翔する3羽が確認された。本種は東京都レッドデータブックで準絶滅危惧種(NT)に指定されている。



<その他>

砂町運河では構造物やその周辺でウミネコの成鳥 45 羽と雛 5 羽が確認された。このうち、成鳥 1 羽が同じ場所に留まり動かない事から、抱卵または抱雛中と推定された。このほか、京葉線の高架にとまるカワウ 101 羽が確認された。



ウミネコが営巣する構造物



ウミネコと雛 (矢印)

<トピックス>

-サギ類の繁殖-

第六台場でアオサギとコサギの営巣が確認された。かつて第六台場では毎年サギ類が営巣していたが、アオサギとコサギの確実な営巣確認は平成 31 年度で一旦途切れ、その後は令和 6 年度にアオサギ 1 巣が見られたのみである。今回の調査で、アオサギは令和 6 年度以来 2 年ぶり、コサギは平成 31 年度以来 7 年ぶりに営巣が確認された。営巣地付近は視認できる範囲が狭く、第六台場北側の石垣の隙間から見える範囲に限られるが、少なくともアオサギ 1 巣とコサギ 6 巣が確認できた。この他、第六台場北東側の樹上にもアオサギ 1 巣が見られ、営巣数の合計はアオサギ 2 巣、コサギ 6 巣であった。



コサギの巣(第六台場北側)



第六台場北側のサギ類営巣地 (矢印付近の林内)



アオサギの巣(第六台場北側)



アオサギの巣(第六台場北東側)